

武蔵野大学

➔ MUSASHINO UNIVERSITY

人間力を高める教養教育と 実践力重視の語学教育で “世界に通用する”人材を 育成するグローバル学部

武蔵野大学は、2016年4月、グローバル・コミュニケーション学部を改組し、グローバル学部を開設する。グローバルビジネス学科、グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科の3学科から構成されるこの新学部では、どのような人材の育成を目指しているのか。独自の全学共通教養教育「武蔵野BASIS」と合わせて、そのグローバル教育のねらい、特色に迫る。

取材・文／伊藤敬太郎

グローバル化戦略の一環として 2016年4月に新学部を開設

2024年、武蔵野大学は創立100周年を迎える。その節目に向けて、2014年には法学部、経済学部、2015年には工学部を新たに開設。文・理・医療系の9学部を擁する総合大学へと発展した。

そして、同大学が次なる戦略として推し進めているのが「武蔵野大学国際化ビジョン100」。①教育内容の国際化と充実②研究環境の充実③外国人学生受け入れの拡大④学生の海外派遣の拡大⑤組織体制・ガバナンスの強化など、多角的にグローバル化に取り組んでいる。

その一環として、2016年4月、現在のグローバル・コミュニケーション学部を「グローバル学部」に改組し、新たなスタートを切る。同学部には設置されるのは右記の3学科だ(図1)。

では、同学部では、どのような人材の育成を目指しているのだろうか。

「グローバル時代に必要な人材とは、グローバルな視野をもって、異なる文化的背景をもった人々と交流・交渉できる能

力をもった人材です。グローバル学部では英語、中国語、日本語といった複数の言語を駆使しながら多様な文化を十分理解し、ビジネス、教育、学術の分野で、グローバルに活躍することのできる人材を養成することを目的としています」(現グローバル・コミュニケーション学部学部長／示村陽一教授)

グローバル人材へのニーズが各分野で広がる一方、本当の意味でニーズを

満たす能力・経験を備えた人材はまだまだ少ない。

語学に関しても今や英語が使えるのは当たり前で、プラスαの言語が求められるようになってきている。

そこで、グローバル学部が重視しているのが、ビジネスなどの現場で実際に使える英語力の養成、英語だけにとどまらず中国語も駆使できるトライリンガル人材の育成、さらに異文化理解やグロー

お台場・有明エリアに位置する有明キャンパス。グローバル学部の学生は、1年次は吉祥寺エリアの武蔵野キャンパスで学び、2年次から有明へ

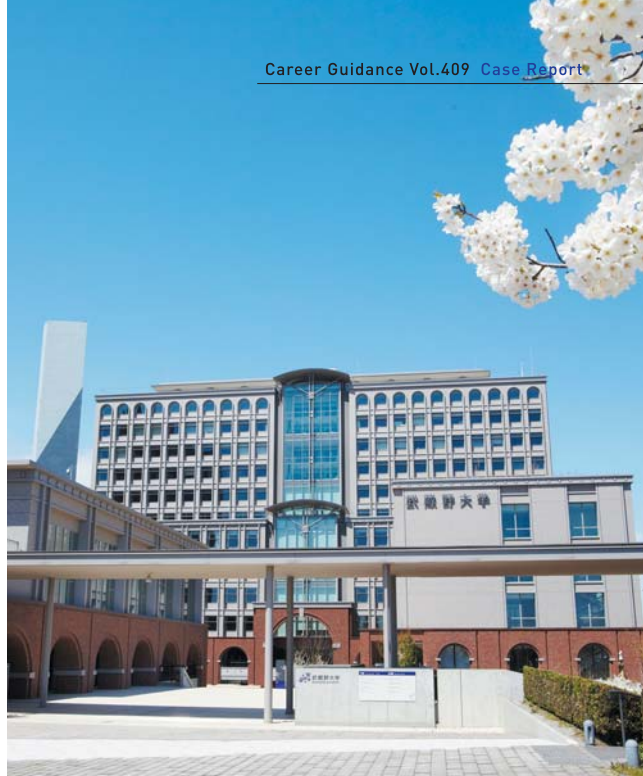
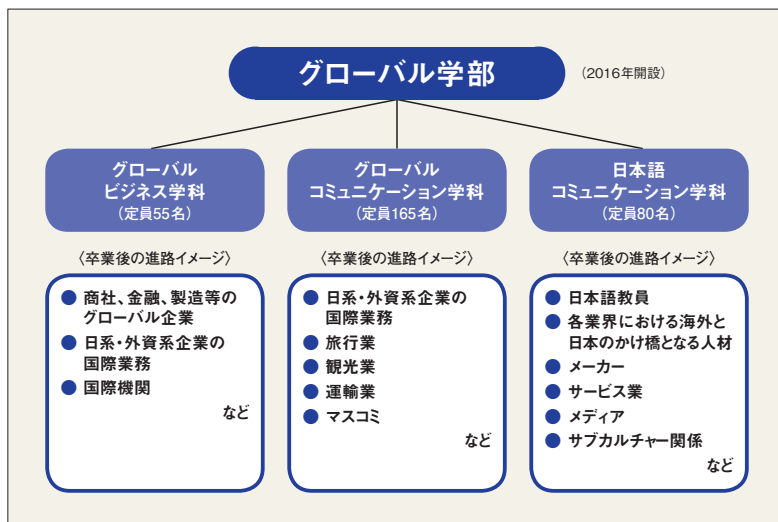


図1 グローバル学部の学科構成と進路イメージ





① 示村陽一教授

バルコミュニケーションに必要不可欠な幅広い教養を身につけることだ。

オール英語で留学生とビジネスを学ぶ

この同学部のコンセプトが集約されているのがグローバルビジネス学科。同学科では、英語と中国語の言語運用力を磨きながら、英語で経営やビジネスに関連する科目(マネジメント、マーケティング、会計、戦略立案、中国ビジネスなど)を学んでいく。

「経営の知識・スキルだけでなく、英

語だけでもない、ビジネスと英語のインテグレーション(統合)が本学科の目標であり、強みです。1年次ではグローバルビジネスの基礎となる英語運用力やアカデミックスキルズを養成。2年次では、英語で説明したり、打ち合わせをしたり、ビジネスの場で実践的に英語を使ってコミュニケーションする方法を学ぶとともに、ビジネスの基礎的な知識を修得。3年次のゼミでは、企業の財務分析をし、パワーポイントを使ってプレゼンテーションします。もちろん、資料も発表も英語です」(金子敦子准教授)

英語を語学としてだけ学ぶのではなく、学習や、ビジネスの場を想定したコミュニケーションのツールとして日常的に使い続けることで実践的な言語運用力を高めていこうというのがこのカリキュラムのねらいだ。

英語とビジネスのインテグレーションに加え、中国語も習得するため、グローバル人材としての付加価値は高まる。同学科卒業後は、グローバル企業や国際機関でも活躍が期待される。

実践性の高い英語力に加えて中国語の習得も目指す

グローバルコミュニケーション学科は、日本語・英語・中国語を駆使できるトライリンガルの養成に重点を置いた学科。語学だけでなく、中国やアメリカなどの地域研究や言語文化研究に取り組む

科目なども充実し、幅広い知識に基づいた異文化理解力を養うことができるカリキュラムだ。また、自分が関心のあるテーマについて外国語で研究する「コンテンツ・ベースド・ラーニング」を通して、外国語で考える力や表現する力も身につけることができる。

卒業後は、グローバル企業の国際業務や、旅行・観光、運輸、マスコミなどの業界への進路が想定されている。

日本と世界をつなぐ“ブリッジ人材”を育成する

日本語コミュニケーション学科は、日本と世界をつなぐ“ブリッジ人材”の育成を目指している。英語、中国語に加えて、日本語についても体系的に学習。サブカルチャーを含む日本文化なども留学生とともに学び、日本の魅力を世界に発信する力を養っていく。

卒業後は、日本語教員のほか、グローバル企業などで活躍する道もある。

グローバル人材を育成するためのさまざまなプログラム

さらに、「異なる文化的背景をもった人々と交流・交渉できる能力」を養うための機会は、各学科のカリキュラム以外にも豊富に設けられている。

● グローバル・プロジェクト

日本人学生と留学生が混成チームを

図2 4つの留学制度

協定留学	
武蔵野大学と協定を結ぶ世界各国の大学への留学制度。留学先大学で取得した単位の読み替えができ、4年間での卒業が可能。協定校の定める語学基準をクリアする必要あり。	
認定(SAP)留学	
武蔵野大学の許可を得て自分の選んだ外国の大学へ留学する制度。協定留学と同様、4年間での卒業が可能。	
第2学期留学プログラム	
2学期～夏期休暇期間中に協定校・交流校の語学研修プログラムに参加できる制度。日本人が比較的少ない時期に留学が可能。	
海外語学研修	
イギリス、カナダ、オーストラリア、マレーシア、台湾、韓国への短期語学研修。期間は夏期、春期休暇中の3～5週間。海外語学研修の単位取得も可能。	

図3 グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)4年間の学び

	目標設定	GLP	プログラムなど
4年次	TOEIC®900点 中国語検定準1級		卒業研究
3年次	TOEIC®860点 中国語検定準2級～2級	産学連携プログラム	協定留学(SAP留学) コンテンツ・ベースド・ラーニング
2年次	TOEIC®730点 中国語検定3級～準2級	短期語学研修	協定留学(SAP留学)
1年次	TOEIC®600点 中国語検定4級	短期語学研修	武蔵野BASIS

結成し、課題研究を行うグローバル学部の学科横断科目。留学生と英語でコミュニケーションしながら、アイデアを出し合い、フィールドワーク、プレゼンテーションなどに取り組むことで、外国語の運用能力や異文化理解力、グローバルな環境でのチームワーク、課題解決力などを身につけていく。

● インターンシップ・海外留学制度

武蔵野大学として、3年次の夏期休暇にアメリカ、カナダ、オーストラリアで就業体験ができる海外インターンシップ制

度や図2に示したような複数の海外留学制度を設けている。長期留学をしても4年間で卒業することが可能だ。

● グローバル・リーダーシップ・プログラム (GLP) (図3)

グローバルビジネス学科とグローバルコミュニケーション学科から選抜された学生が対象。高い語学習得目標と豊富な海外体験、外資系企業との協働などの教育プログラムで実践的な英語・中国語力を身につけた、国際舞台で即戦力となるグローバルリーダーを育成する。

*

そして、一連のグローバル人材育成教育の土台となるのが、1年次に武蔵野大学全体の共通基礎課程として導入されている「武蔵野BASIS」による教養教育やキャリア教育だ(コラム)。

即戦力としてのスキル、加えて、幅広い教養を基礎に、学び、成長し続ける力。それらを兼ね備えていることが、今後求められるグローバル人材の条件。それこそが、まさに武蔵野大学グローバル学部が育成しようとしている人材像なのだ。

COLUMN

学ぶ力や豊かな教養を育む全学共通基礎課程「武蔵野BASIS」

グループワークで幅広い教養を学ぶ

武蔵野大学の学部教育における大きな特色のひとつが、全学共通基礎課程として1年次に設定されている「武蔵野BASIS」。教養教育、リテラシー教育、キャリア教育などを体系化したプログラム(図4)で、1年次の段階で幅広い教養や探究心、学ぶ力、成長する力などをしっかりと磨き、2年次以降の専門分野の学習・研究につなげていくことを目的としている。グローバル学部では武蔵野BASISもすべて英語で学ぶ。

なかでも目玉となるのが、**哲学、現代学、数理学、世界文学、社会学、地球学、歴史学**の7つのテーマ群を学ぶ教養科目「基礎セルフディベロップメント」だ。いわゆる一般教養との違いは、文理にまたがる幅広いテーマについて全員がすべて学ぶこと。そして、毎回前半が講義、後半がグループワークで構成される参加型授業であることだ。

各テーマ群について3週間ずつ授業を行い、年度末には集大成としてのプレゼンテーションも実施する。単なる基礎知識の習得にとどまらず、それぞれのテーマに関して、深く考え、ディスカッションし、レポートを書くことを

通じて、本質的な意味での基礎教養を養うことができるのが特色だ。

海外フィールドワークのチャンスも

「キャリアデザイン」もその後の学びの土台になる科目のひとつ。さまざまな分野で活躍する社会人の生の声に触れられるほか、武蔵野BASISフィールド・スタディーズプログラム内には海外フィールドワーク(図5)のチャンスもあり、その後の留学などに意欲的に取り組

むきっかけになるケースも多いという。

グローバル人材育成の観点からも、世界を俯瞰的にとらえ、異文化を理解するための教養、さらに国内外を問わず自らのキャリアを切り拓いていく主体性の基礎を養う教育として、武蔵野BASISは極めて重要な意味も持っているといえる。

なお、武蔵野BASISフィールド・スタディーズプログラムは、平成27年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択され、さらなる教育の充実を図っている。

図4 武蔵野BASISの科目構成

心とからだ		学問を学ぶための基礎	
建学	武蔵野大学の建学の精神を基礎とした倫理観や慈悲の心	コンピュータ	調査や研究、論文執筆などでコンピュータを最大限に活用する力(ワード・エクセル)
健康体育	身体を動かす体育と、身体行動についての学びの理解を実践	日本語リテラシー	レポートや研究論文における論理性・表現力を最大化するためのリテラシー(読み書き力)
外国語		自己理解・他者理解	
外国語(英語)	TOEIC-Bridge®テストなどでも高い得点をマークでき、国際社会で活用できる、バランスのとれた英語運用力	基礎セルフディベロップメント	別掲の7つのテーマに関して、講義とグループワークで学ぶ、ユニークな参加型授業
外国語(初修)	フランス語/スペイン語/ドイツ語/中国語/韓国語それぞれの外国語のバランスのとれた運用力	自己の探求	自己や他者を深く理解する力
		キャリアデザイン	人生を豊かに生きていくための力

図5 海外フィールドワーク

学外学修プログラム	
1	Taipei ホスピタリティ・ビジネス
2	Cambodia Phnom Penh / Siem Reap 発展途上国で学ぶグローバル・シチズンシップ
3	USA Los Angeles グローバルキャリア育成プログラム
4	USA Los Angeles 医療・福祉施設視察研修
5	CANADA EDMONTON 環境体験プログラム



活発に議論しながらテーマへの理解を深める